

## ベンタナ HE600 の使用経験～導入の経緯と効果、ワークフロー改善に向けて～

◎蓑島 敦志<sup>1)</sup>、竹浪 智子<sup>1)</sup>、木戸 朋美<sup>1)</sup>、大門 史士<sup>1)</sup>、中振 大貴<sup>1)</sup>、角 大伍<sup>1)</sup>、森谷 純<sup>1)</sup>  
札幌医科大学附属病院<sup>1)</sup>

### 【はじめに】

2018年医療法等の一部を改正する法律では、精度管理体制のさらなる向上が求められており、病理検査領域においても精度管理・標準化が必要となってきた。

今回、全自動 HE 染色装置ベンタナ HE600（以下 HE600）を導入したため、その使用経験とともに導入の経緯や効果について報告する。

### 【導入の経緯】

当院検査部及び病理部の ISO15189 認定導入に伴い、通常業務に加え、使用試薬のロット管理や試薬使用量の管理業務等が加わり、業務の負荷が増大していた。そこで、機器更新のタイミングでワークフローの改善・業務の簡略化、標準化を目的に、HE600 を導入した。

### 【導入の効果】

試薬の補充・染色液の交換、また試薬の廃棄や染色機の清掃といった業務を毎日手作業で行なう必要があったが、HE600 は自動でスタートアップ動作やクリーニングを行うため、これらの作業は必要なくなった。また試薬は

RFID タグで管理されており、試薬の配置間違い等のヒューマンエラーが生じる可能性がなくなった。染色工程においてもスライドトレイを挿入するだけで自動的に染色を開始し、ベーキング、脱パラフィン、染色、脱水、封入、乾燥まで全自動で行われるため、業務が簡略化された。HE 染色に関与する拘束時間は減少し、その他の ISO 管理業務等を行うことができるようになり、ワークフローが改善された。染色はスライドガラスごとに新しい試薬を滴下・吸引するため、染色液の劣化がなく、一定の染色性を保った標本が作成可能であるため、精度管理が容易である。またアルコールやキシレンを使用しないため、廃液処理も必要なく、職場環境の改善にも寄与している。

### 【まとめ】

ベンタナ HE600 の導入により、HE 染色の作業が簡略化することでワークフローが改善された。また染色工程や試薬の均一化により、精度管理・標準化に寄与すると考えられる。

連絡先 011-611-2111（内線：36630）